リスクに効く心理学



NO.8
ゼロリスク要求にどう立ち向かうか？

中央大学
CHUO UNIVERSITY
大友章司

1 ゼロリスク達成可能性が評価に及ぼす影響

中谷内一也 (1999). ゼロリスク達成の価値におよぼすリスク削減プロセスとフレーミングの効果. 社会心理学研究, 14(2), 69-77.

ゼロリスクが達成可能な場合と、達成できない場合で、リスク削減策への評価に及ぼす影響を検討

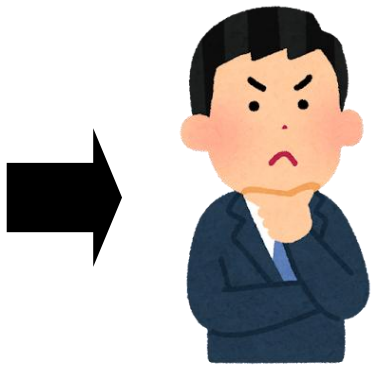
新生児の死亡リスク削減策への価値評価を対象にした実験



VS.



ゼロリスク可能条件　　ゼロリスク不可能条件



新生児の死亡リスクの削減策に対するコスト負担増の許容額で評価

将来的なゼロリスクの達成可能性

ゼロリスク可能条件は不可能条件よりも、負担増の許容額を多く評価。
ゼロリスクを達成できる可能性があるだけで、価値は高く評価される。

2 漸次的なリスク削減がゼロリスク評価に及ぼす影響

中谷内一也 (1999). ゼロリスク達成の価値におよぼすリスク削減プロセスとフレーミングの効果. 社会心理学研究, 14(2), 69-77.

現実には、一度にリスクを取り除くことは難しい。漸次的なリスク削減による場合にも、ゼロリスク効果が生じるのかを検討する。

地震の家屋被害の死亡リスク削減策を対象にした実験



漸次的削減

vs.



一斉型削減

リスク削減策条件

×



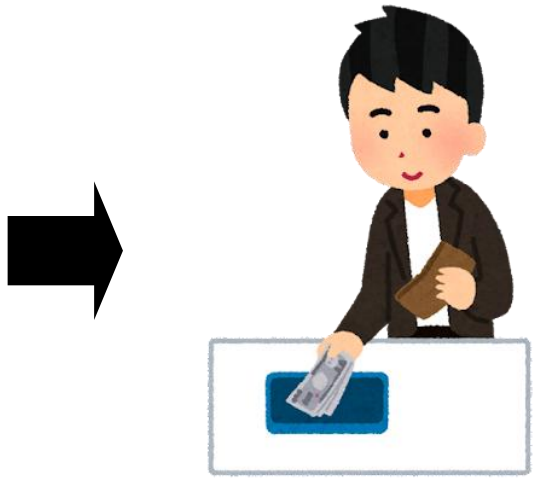
ポジティブ

vs.



ネガティブ

フレーミング条件



耐震化による値上がりとして許容できる金額

>実験の結果

1000名分の犠牲者を削減する耐震化による値上がり額の差分を算出



漸次的削減

死亡リスクの削減数	漸次型		一斉型	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
4000人→3000人へ削減	500万円	200万円	200万円	200万円
3000人→2000人へ削減	250万円	200万円	100万円	200万円
2000人→1000人へ削減	120万円	160万円	100万円	200万円
1000人→0人へ削減	130万円	115万円	200万円	500万円



一斉型削減

漸次型では、最初のリスク削減の価値が高く、それ以降は下がっていった。
一斉型条件では、ゼロリスク達成時に高い価値を示していた。
→漸次型では最初のリスク削減に価値が置かれやすいのに対し、
一斉型ではゼロリスク効果が生じた。

3 ゼロリスク要求にどう立ち向かうか？



ゼロリスク達成可能性

達成可能性が示されるだけでも、価値が置かれてしまう。



リスクの一斉削減

リスクを一斉に削減しようとするとゼロリスク効果が生じる



リスクの漸次的削減

リスクの漸次的削減ではゼロリスク効果が生じにくい。

科学的にはゼロリスクの達成は不可能

徐々にリスクを削減することで、過大なコストを冷静に評価しやすくなる。